



書道家
永田 紗戀 様

表紙のイメージ

2013年に「優」しさを、から全でははじまりました。「笑顔」が咲き「感謝」の花が溢れました。CSR 推進部 箕輪 執行役員の CSR に対する熱い想い。創作はいつも苦労を伴いますが、まるでその言葉たちが私の心に宿ったかのごとく、自然と作品が仕上がるのです。これはアデランス様の活動に毎回感動で満たされ、表紙を描かせていただく喜びが溢れるからでしょう！2016年「初志」と笑顔で仰った箕輪氏が印象的でした。「あの頃の志が5年でこうなりました」はじめての想い、同じ志を持ち続けるイメージを花咲く書道で私らしく表現させていただきました！

CSR コミュニケーションレポ^ルト 2016



外部団体および企業とのコラボレーション



JHDAC JAPAN HAIR DONATION & CHARITY

NPO 法人 JHDAC (JAPAN HAIR DONATION & CHARITY) の活動に賛同し、「愛のチャリティ」とのコラボレーションに向けた動きが進んでいます。



日本毛髪科学協会

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士の資格取得の推進に取り組んでいます。

毛髪診断士は、公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。



経営倫理実践研究センター

企業の経営倫理を実践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



がん患者の生活をサポート

株式会社 VOL-NEXT

患者様が安心して、医療用ウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社である VOL-NEXT 社による医療講習を実施しています。

株式会社 アデランス

グローバル CSR 広報部

〒160-0007 東京都新宿区荒木町 13 番地 4

住友不動産四谷ビル

TEL: 03-3350-3542

E-mail: csr@aderans.com

URL: <http://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>



～みんなでひとつつながろう～

OneWorld プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力 / 公益財団法人日本対がん協会、後援 / J-CAN) の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



ツバルの森

ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



日本毛髪工業協同組合

毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



さくら並木ネットワーク

2011年の東日本大震災・大津波の到達地に桜を植え、津波被害を伝承する桜並木を植樹し、東北地方の復興支援に協力しています。



Network Japan
WE SUPPORT

2014年4月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった戦略的CSR」を積極的に推し進めて参ります。

2016年9月発行

笑顔のために

株式会社 アデランス



株式会社アデランス
代表取締役 会長兼社長 CEO
根本 信男

当社は、1968年の創業以来、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで事業に取り組んでいます。

現在では、国内だけでなく、海外でも事業が進み、グローバル企業として支持され始めています。

国内外の多くのお客様に当社の商品をご利用いただけるようになり、その分、社会に対する、当社の責任は大きくなっています。

その責任を適正な形で発展させることが当社のCSRであり、しっかりとしたコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えております。

「世界のブランド アデランス」という夢を実現するため、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。

現在、国内外で約6,100名もの社員がお客様のお悩みの解決に向けて様々な立場で日々の業務に取り組んでいます。

社員の一人ひとりが、アデランスの代表であり、彼らを支え、現場での課題を解決しやすくするため「サーバントリーダーシップ」を重視したマネジメントを進めています。

アデランスの活動地域は、現在17カ国となり、ますますグローバルに広がっています。それにともない、アデランスの、企業としての社会的責任にもグローバルな視点が不可欠となっています。

すべての社員が、自らの社会的責任を自覚し、さまざまな分野でチャレンジしていくことで、CSR意識溢れる「グッドカンパニーの実現」を目指してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役副社長 COO
津村 佳宏

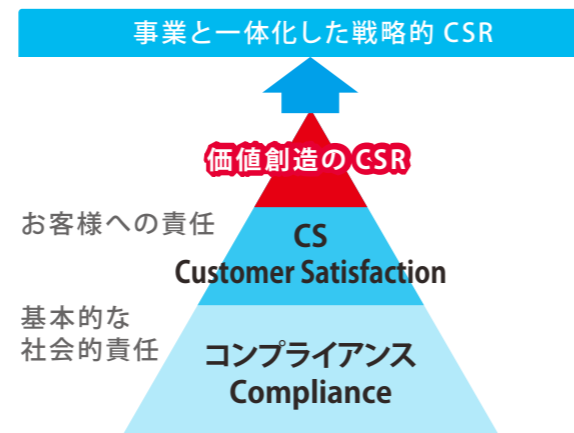
経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は、
毛髪関連事業を通じて、
より多くの人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術」
「心からのおもてなし」

アデランスのCSRについて

アデランスグループでは、CSRへ取り組むことの意義を「健全で持続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。そうした活動の根幹には、「自社の強みを社会で活かす」ことがあります。



会社概要

商号：株式会社アデランス
(英文名称：Aderans Company Limited)
設立年月日：1969年(昭和44年)3月1日
資本金：12,944百万円
上場証券取引所：東京証券取引所 第一部
コード番号 8170
連結子会社数：51社

国内外ネットワーク

(2016年2月末現在)
店舗数等 428店
国内 アデランス
レディースアデランス 163店
フォンテーヌ 240店
病院内ヘアサロン 25店
活動地域 17ヶ国
地域別従業員数
国内 2,278名
国外 3,825名
計 6,103名

男性向けブランド
ADERANS

男性向けにオーダーメイドウィッグ、増毛商品、育毛サービスを提供しているブランドです。

海外ウィッグ
HAIRCLUB

米国で男性向け、女性向けにオーダーメイドウィッグ、育毛サービス、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。

先頭
SENTOO COLLECTION

センター・コレクションは、医療用ウィッグを中心に事業展開している、欧州におけるアデランスグループの統一ブランドです。

女性向けブランド
FONTAINE
レディース
アデランス

女性向けにオーダーメイドウィッグ、レディメイドウィッグ、ヘアケア&スカルプケアを提供しているブランドです。

毛髪移植
BOSLEY

世界25万例以上に及ぶ治療実績を誇る、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。



秋篠宮家の眞子様が学ばれた英国の名門レスター大学で、アデランスが、日本企業としては初めて正式に招聘され、特別講義を行いました。

2016年8月23日、英国のレスター大学で、MBAの学生を対象に、当社CSR推進部担当執行役員箕輪睦夫が、「三方よしの考えに基づいた事業と一体となった戦略的CSR」について、日本企業として初めて講義を行いました。

講義は、前半が当社の戦略的CSRを、近江商人の三方よしの考え方の歴史的検証から始まり、「がん患者様に寄り添う病院内ヘアサロン」「お客様を中心に置いたエコサイクルフォントーナの森キャンペーン」「病気や事

故で脱毛してしまったお子様へのウィッグのプレゼント」「舞台・映像芸術を支えるエンターテインメントウィッグ」など、当社の取り組み事例を「笑顔をお届けする」という内容を説明しました。

後半は、アデランス UK 社長 リン・ハリスが、「英国における戦略的CSR」として、カリスマ美容師トレバー・ソルビー氏の「My New Hair」へのウィッグ技術サポートや脱毛症に悩んでいたオリンピック金メダリスト、ジョアンナ・ロウセル氏へのウィッグのプレゼントなどについて発表しました。



英国レスター大学
ワグナー 教授

2013年8月にCSR研究で著名な英国レスター大学のワグナー教授が、アデランスグループのCSRに興味をもたれ、その調査のため来社され、根本会長にインタビューをしました。



レスター大学について

レスター大学 (University of Leicester) は 1921 年に創設された英国イングランド中部、レスター市に位置する国立大学。比較的小さな規模にもかかわらず、研究、特に教育水準が高く、英国では最も優れた大学のひとつとして、認知されている

聴講者の一人として参加をさせていただきました。世界の優秀な人材を前に、大変わかりやすく、熱気に満ちた講義でした。このような国際的かつ継続的取り組みが、経営倫理・CSR の浸透に一番良い方法であると理解を深めることになりました。

金沢工業大学
基礎教育部 准教授
岡部 幸徳 様



講演する当社執行役員 箕輪睦夫



講演するアデランス UK 社長 リン・ハリス

当社の「戦略的CSR」が グローバルに評価される

今回の講義招聘の責任者であるワグナー・シングモント教授も講義内容と教室の雰囲気にとっても満足され、早くも次回の講義依頼を受けることになりました。学生たちからは、積極的にいくつもの質問が出て、その質問ひとつひとつ丁寧に答えることで、講義は大いに盛り上がり活況を呈しました。

当社が取り組んできた「事業と一体となった戦略的CSR」がグローバルに評価された瞬間でした。



株式会社アデランス
執行役員
海外事業本部 副本部長
米国エリア部 CSR 推進部 担当
箕輪 睦夫



株式会社アデランス
取締役
海外事業本部 本部長
古川 政明

グローバルCSR元年

当社が、グローバルにそして永続的に成長するためには、社会からの信頼は欠かせません。お客様や社会から信頼を得るためにはCSRの取り組みはとて重要と考えます。

「社会・地域貢献」「お客様の安全・安心」「環境への取り組み」「学術・文化活動」などの取り組みを通じて、CSR活動の意義を海外子会社の社員へ発信し、CSRを起点とした当社の

様々な企業価値を全世界に発信してまいります。

海外事業本部が設置された本年を、グローバル CSR 元年と捉えたいと思います。

トータルヘアソリューション企業として、社会的価値を持った活動に誇りを持って誠実に取り組み、グッドカンパニーの実現を目指してまいります。

新たな戦略的 CSR

アデランスグループのCSR活動とは、「社会的価値を持った活動」をさらに深め、広げていくことです。2011年より始まった、このCSRプロジェクトの取り組みは、新たな社会的価値の創造、そしてコラボレーションと、さまざまな展開に発展し続けています。

熊本地震におけるアデランスの取り組み

2016年4月14日以降頻発しております、熊本県等を震源とする地震により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

緊急の支援物資

2016年4月に、緊急の支援物資として、水を使わないで頭皮や髪を清潔に保つ、当社のヘアケア製品 2 種類 2,028 本を、被災地へお届けいたしました。

被災地域における当社関連店舗

今回の地震の影響により、被災地域内にある当社一部店舗を一時休業とさせていただきますが、その後、営業を再開させていただきます。

【支援物資】

・AD&F ケアウォーター：1,008 本
髪や頭皮にスプレータオルでふき取ることで髪や頭皮の汚れを取り除ける製品。全身に使用可能。

・AD&F アイストニック：1,020 本
頭皮に噴射タオルでふき取ることでフケ、かゆみを抑える製品。



一日も早い復興と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げますとともに、当社は、今後も被災された地域等と連絡を取り合い、震災の状況に応じた支援を進めてまいります。

NPO 法人 JHDAC への協力

アデランスは、病気などでウィッグを必要とする子どもたちに無償提供している特定非営利活動法人 Japan Hair Donation & Charity (JHDAC) の活動に賛同し、CSR活動の一環として同活動への協力を、2015年から開始しております。

2015年3月より、完全個室を備えるアデランスサロンを、ウィッグの製作に必要な採寸(頭のサイズの計測)や、ウィッグのお渡しなど、ウィッグの提供を希望される方の支援場所として提供しています。さらにシャンプーや自髪のカット等のサービスを割引価格で提供し、アフターケアをサポートしております。

2016年4月から、JHDACからの依頼を受け、新たにウィッグ製作での協力を開始していま

す。現在製作を請け負っている、大正14年創業の老舗かつら製造販売会社である株式会社コマチセンターとともに、当社が製作に加わることによって、ウィッグ

を必要とする子どもたちへ、スピーディーで質の高いウィッグの提供を目指します。



写真：左から2人目が渡辺様

ウィッグ関連企業として世界第1位のアデランス様と、「髪に悩みを抱える子供たち」に無償でフルオーダーウィッグを提供しているJHDACが出会い、この度『アデランスによるOnewigの製作』というかたちで大きく結果しました。オーダーメイド・ウィッグ製作のノウハウと高いクオリティーを、今後より多くの子供たちに惜しみなく提供されることは、当団体としても大いに期待を寄せるところです。

特定非営利活動法人
JHDAC 事務局長
渡辺 貴一 様



写真：左から2人目が岩崎様

JHDAC様とのお付き合いは数年前知人の紹介で始まり、渡辺事務局長の熱い想いに我々も心打たれ、特別仕様のウィッグを開発し、今日までご提供してきました。今回、業界最大手であるアデランス様が加わることで、より早く多くのウィッグが提供でき、沢山の子どもたちの笑顔が見られることと期待しております。

株式会社コマチセンター
代表取締役社長
岩崎 孝俊 様

2011年のCSR部門の立ち上げ以来、当社ではCSRの迅速な社内浸透を図るため、事業と一体化した「攻めのCSR」を中心に推進してまいりました。2016年に、リスクマネジメントの専門家である、関西大学の高野一彦教授を社外取締役を迎え、「守りのCSR」のさらなる推進に取り組んでまいります。



グローバル・コンプライアンスへの取り組み

「アデランス」ブランドは、国内において98%の認知率を誇っており、「ナショナルブランド」といっても過言ではないでしょう。社会は「ナショナルブランド＝信頼できる企業」と期待しています。当社はこれまで、社会からの期待に真摯に応えてきました。

現在、当社グループは世界17か国で事業を展開するグローバル企業に成長しました。今後、

関西大学 社会安全学部・大学院社会安全研究科 副学部長、教授・博士（法学）
ベネッセコーポレーション、名古屋商科大学大学院（MBA）教授、関西大学 社会安全学部・大学院社会安全研究科 准教授、教授を経て現職。関西電力 経営監査委員会 社外委員、一般財団法人ベネッセこども基金 評議員、日本経営倫理学会 理事、情報ネットワーク法学会 監事、日本経営倫理士協会 理事、日本リスクマネジメント学会 評議員、ソーシャル・リスクマネジメント学会 理事、高槻市消費者教育推進プログラム関係機関連絡協議会委員長などを兼任。
2016年5月、株式会社アデランスの社外取締役に就任。

高野 一彦
株式会社アデランス 社外取締役

当社が取り組む「三方よし経営」は、従業員満足（ES）、顧客満足（CS）、社会的責任（CSR）による世間の満足を追求します。その頭文字をとり、積極的にチャレンジする意味から「攻めのECSR」と表現していますが、これを進める上でカギとなる言葉が「接する人は、お客さま」です。

つまり自分たちが接する人—お客さまだけでなく、仕事で接す

る上司や部下・同僚、取引先など—は、すべてお客さまと考えれば、その人の喜びや満足を求めて活動することに結びつくはず。その結果、セクハラやパワハラもなくなり、お互いの心に感謝の気持ちも芽生えます。

お客さまや、仲間たちの感謝の気持ちは、売上向上につながることに間違いなし。「接する人は、お客さま」を合言葉に、攻めのECSRを目指しましょう。

資生堂在任中に福原会長（当時）の下で、CSR部署を立ち上げ、日本で最も進んだCSR活動を実現した後、1999年に資生堂を退社し駿河台大学へ転身。その後、「マーケティング倫理」により、アンソフ・アワード特別文献賞を受賞。また、西武ホールディングス「企業倫理委員会」社外委員として、企業の経営倫理を支え、同社の再上場にも貢献した。現在は、日本におけるCSRの第一人者として活躍、日本経営倫理学会副会長、日本経営品質学会副会長の要職にある。2015年5月、株式会社アデランスの社外取締役に就任。

接する人は、お客さま



水尾 順一
株式会社アデランス 社外取締役

お客様の毛髪に対するニーズに応えるため、アデランスが大事にしているのが「アフターサービス」で、中でも「技術」を大切にしています。その「技術」を、アデランスの理美容師が競い合う「全国技術競技大会」を開催しました。

「アデランス全国技術競技大会」は、全国のアデランス、レディスアデランスの店舗で働く理美容師（2016年1月末現在1,478名在籍）の中から、「理容部門」「美容部門」それぞれの部門において、技術力の高い1名を選ぶ大会です。

全国の店舗を11のエリアに分け、各エリアで予選大会を行い、理容師、美容師から各1名、計22名を選出します。2月に開催した本選で、22名の中から、「理容部門」「美容部門」の優勝者を決定します。

本大会は、近年のウィッグ需要の高まりなどを背景に、当社の強みである「技術力」の更なる向上を目的に開催しました。

当社のサロンで調髪やメンテナンス、アフターサービスにおける技術・接客を担当する者はすべて理美容師資格を持った技術者です。アデランス、レディスアデランスのサロンでは、お一人おひとりの頭の形や髪質、長さ等に合わせて作製するオーダーメイドウィッグを中心に取り組んでいます。オーダーメイドウィッグは、お客様の自髪を活かし、自髪とウィッグの境目や髪質の違いが分からないように自然に仕上げるため、自髪とウィッグとの馴染みを考えたカットやブロー、スタイリング、さらには髪色や質感に

優れた上質なウィッグを作る生産指示（毛材のミックス、ベース選びや、植える量の指示など）の技術が必要となります。

今後は、アデランス、レディスアデランスだけでなく、当社の女性用レディメイドウィッグ（既製品）を取り扱うフォンテーヌ事業や、海外のグループ会社まで対象を広げたグローバル大会の実施も進めていく予定です。

アデランスでは、本大会を通じ、経営理念である「最高の商品」「最高の技術」「心からのおもてなし」の実現を目指します。



「第47期 アデランス全国技術競技大会」概要
開催日
【本選】2016年2月
【予選】2015年7月～10月

応募資格
株式会社アデランスに在籍し、アデランス/レディスアデランスで勤務する理美容師の資格を有する者。

選考の流れ
全国の店舗を11のエリアに分け、各エリアで予選大会を行い、理容師、美容師から各1名、計22名を選出。本選で、22名の中から、「理容部門」「美容部門」それぞれの優勝者を決定。

審査員
代表取締役会長兼社長 CEO 根本 信男、代表取締役副社長 COO 津村 佳宏など35名の社内審査員に、フォンテーヌの専属ヘアプロデューサーの野沢 道生氏を加えた36名。



株式会社アデランス
教育指導部 部長
吉村 茂

華やかでデザイン性が高い

今回は、サイバーヘアを採用した作品が多く、華やかなデザインのものも多く見られ、ウィッグの可能性の広がりを感じました。本大会を開催できたことを大変嬉しく思っています。

アデランスグループは、高品質の商品をお客様にお届けするため、タイ・フィリピン・ラオスの3ヶ国に生産工場を持ち、生産販売一貫体制をとっています。約3,500名のスタッフがウィッグの生産を行っています。今回、タイ工場のレディメイドウィッグの生産現場での、CSR視点で見た取り組みについて紹介します。

レディメイドウィッグの製造工程



高品質の製品を支える生産現場

主要生産拠点であるタイ工場では、安定した製品クオリティを維持するため ISO9001 を取得しています。また、ISO14001 (国際環境管理規格) を認証取得し、環境を配慮した以下の活動を継続して実施しています。

1. 工場排水による水質汚染の防止
2. 工場内における空気汚染の防止
3. 産業廃棄物の安全処理
4. 有資源の効果的使用
5. 工場内の労働環境改善

レディメイドウィッグ
タイ工場の年間生産枚数
(2015年)

- ・日本・アジア向け 173,630 枚
- ・欧州他向け 326,932 枚

現地雇用人数 (2016年8月現在)

- (タイ)
 - ・アデランス・タイ社 686名
 - ・ワールド・クオリティ社 207名
- (ラオス)
 - ・アデランス・ラオス社 1,258名
 - ・ラオ・クオリティ・ソール社 (OEM)
- (フィリピン)
 - ・アデランス・フィリピン社 1,485名

タイ工場の社会地域活動

部材のリサイクル利用

ウィッグ製作時に発生する廃材を有効活用できないかと考え、造花、車拭きやクッション、サンダルなど多種多様な試作に取り組んでいます。造花については現在、現地での定年退職者への花束贈呈等に利用しています。また、廃材をリサイクル業者へ売却し、その収益で工場内に植林を行っています。



TO BE NUMBER ONE

ウボンラット妃殿下が推進されている TO BE NUMBER ONE (心の友の会) に賛同し活動を行っています。

- ・プリラム県と共同で麻薬撲滅の輪を広げる宣伝活動
- ・世界自然の日、こどもの日、敬老の日などでのコミュニティ活動
- ・災害時での支援活動

タイの病院等へのウィッグ寄贈

タイ工場では新商品開発時の試作ウィッグを現地の病院等に寄贈しています。過去には運用上の問題で試作ウィッグは廃棄していましたが、問題が解決され 2012 年よりタイの病院等に寄贈しています。



生産現場での取り組み

人工毛髪によるCSR調達 ①

アデランスは、無理な人毛調達を回避するため、人毛に劣らない人工毛の開発・製造を行っています。一般のウィッグには人毛が使われている中で、アデランスでは 1983 年より人工毛髪の研究に着手し、商品化しています。

安心安全な素材の利用 ③

お客様の安全のため、発がん性物質の染料を利用せず、接着で必要なりも、人に優しく、品質の高いものを利用しています。また、工程内では、危険なピンや接着剤を使用せず、作業上安全性の優れた製法で行っています。

水の管理 ② ⑧

カルシウム・マグネシウムなどのミネラルが多い硬水では、ウィッグの品質が劣化してしまうため、軟水を調達・利用しています。また、染色で使用した水は、環境配慮し、高性能の浄化設備で処理しています。

熟練の技を要する毛植え ⑦

ウィッグの毛植えは、一つのウィッグの作製に手作業で 15-32 時間を要します。このような作業は、現地の足の不自由な方への職の提供にもつながっています。熟練スタッフが活躍する場の一つで、定着率の高い生産環境となっています。

品質管理の徹底 ⑨ ⑪

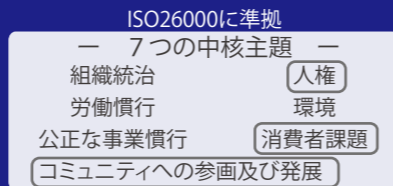
品質管理規定に基づいた製造・製品確認、金属探知機による異物混入の確認など、お客様のための安心安全を徹底しています。商品の問題発生時、その発生箇所を特定できる、トレーサビリティの仕組みを導入しています。

商品を大切に梱包 ⑩

商品の梱包は、商品・スタイルによって様々で、カーン付きの商品は型崩れ防止のため、商品を裏返してパッキングしたり、湿度が高いと型崩れがしやすいため、除湿剤を入れるなど、商品を大切に梱包を行います。

社会・地域貢献

アデランスグループの商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く、笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組んでいます。



アデランスは、1978年から「愛のチャリティ」活動を実施しています。これは「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由でウィッグを必要とするお子さま*が笑顔を取り戻していただけるよう、ウィッグをプレゼントするという活動です。

当初はクリスマスの時期に限定していた活動でしたが、2012年9月から通年ものとなり、また2014年3月からは、従来のオーダーメイドウィッグだけでなく、レディメイドウィッグ(既製品)も、プレゼント対象に加わりました。

(*現在は4歳から15歳までが対象となります。)

年度	贈呈数
2012年	123枚
2013年	178枚
2014年	277枚
2015年	357枚

アメリカの愛のチャリティ「Hair Club For Kids」

アデランスグループのアメリカ関連会社「Hair Club」では、6歳から17歳の髪で悩む子どもたちにウィッグをプレゼントする、アデランス社の「愛のチャリティ」同様のサポート活動を、1992年から20年以上継続して行っています。

35年以上続く、笑顔とよろこびを広げるアデランスのCSR活動の原点

車いすサビ取りボランティア

日赤和歌山医療センター内「こもれび」(当社ヘアサロン)スタッフは、お客様の笑顔のために「自分たちにできることはないか」を探し、ボランティアで病院の車いすのサビを取りました。約7カ月で80台の車いすを磨きました。

(2014年11月~2015年6月に実施)



株式会社アデランス(当時)こもれび日赤和歌山医療センター店 店長 幸山 義英

お客様の笑顔のために考える

病院に許可をいただき、スタッフ全員で車いすのサビ取りを行いました。多くの車いすをピカピカにすることができ、我々に取っても貴重な経験となりました。今後も「自分は何ができるのか？」を考えながら、サロンがお客様のやすらぎの場になれるよう努めます。

(現在)ヘアサロンこもれび九州がんセンター店 店長 兼) こもれび九州医療センター店 店長



国連グローバル・コンパクト署名

アデランスは、2014年4月に「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。広く社会に貢献するグローバル企業として、社会的課題に自社の強みを生かして取り組み、持続可能な社会の実現に努力しております。



ピンクリボン運動に参加

社内では有志を募り、2010年より公益社団法人日本対がん協会が主催する各地の「スマイルウォーク」に参加しています。2014年からは女性社員が、当社のピンク色のエクステンションを着け参加しています。また、「FUN&LIFE! Breast Cancer festival」など、患者様を応援するイベントにも参加しています。



サイバーヘア



バイタルヘア ナチュラルヘア

人工毛髪によるCSR調達の推進

アデランスは、無理な人毛調達を回避するため、人毛に劣らない人工毛の開発・製造を行っています。一般のウィッグには人毛が使われている中で、アデランスでは1983年より人工毛髪の研究に着手し、サイバーヘア等として商品化しています。



タイの病院等へのウィッグ寄贈

アデランスグループは、2012年よりタイ工場での試作ウィッグを現地の病院等に寄贈しています。2016年は、タイのタマサート大学附属病院と国立がんセンター病院の各病院に150枚ずつ寄贈いたしました。また、寄贈だけでなく、患者様一人おひとりに似合うようカットや調整まで行いました。

One Worldプロジェクト

東日本大震災支援

「One Worldプロジェクト」でウィッグお手入れ支援サービス

アデランスは、東日本大震災で被災されたがん患者様向けに、ウィッグのお手入れ支援サービスを継続しています。2012年7月からスタートし、ウィッグのお手入れ等を通常価格の半額で提供しています。2016年6月末の終了を予定していましたが、継続のご要望が多く寄せられたため、2017年6月末まで延長いたします。



海外工場でのウィッグ生産

ウィッグの生産工場を、1986年からタイで、2002年からフィリピンで、2015年からラオスで開設し、雇用を始めとする様々な地域コミュニティとの協力関係を目指しています。

現地雇用人数(2016年8月現在)

- ・ラオス 1,258名
- ・フィリピン 1,485名
- ・タイ 893名



30年以上続く

クリスマス・サンタ企画

クリスマスの時期に、自宅に帰れないお子様のために病院を訪問し、プレゼントをお渡しする「クリスマス・サンタ企画」を30年以上行っています。2015年には全国22カ所の病院で実施し、仙台医療センターには俳優の船越 英一郎様にもご参加いただきました。



介護施設等でのウィッグを活用したファッションショー

介護施設等にて、ウィッグを活用したファッションショーのサポートを行っています。2014年10月には、医療法人社団 石橋内科(本部:兵庫県姫路市)と協働で、デイサービス施設利用者様によるウィッグファッションショーを開催しました。

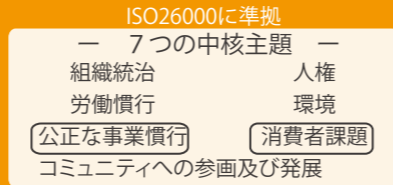
ウィッグで前向きな気持ちに

ファッションショーで初めてウィッグを着用してみて、最初は少し照れくさく、恥ずかしい気持ちになりましたが、「永井さん、かっこういい!似合っている」と、周りから褒められ、すぐにそんな気持ちはなくなりました。それ以来、日常でもウィッグを使うようになり、「薄毛を隠すもの」ではなく、「おしゃれ」をするものだと考えるようになりました。靴をピカピカに磨いた時の高揚感に似て、「おしゃれとして楽しむ」「自分に自信を持って生きる」とても前向きな気持ちになれる。

広畑センチュリー病院 地域連携室 医療相談員 永井 森太郎 様

お客様の安心・安全

アデランスグループでは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げ、お客様の満足と信頼を高めるために、グループ一丸となって取り組んでいます。



当社は髪を通じて心の健康をサポートする医療事業活動に積極的に取り組み、その一環として病院内理美容室（ヘアサロン）を運営・展開しています。

病気で療養中の患者様には、抗がん剤や放射線治療の副作用による脱毛、爪の変色など外見の変化に悩まれる方が多くいらっしゃいます。病院内ヘアサロンでは、患者様の QOL（Quality of Life）の向上を目的に、シャンプー、ヘアカット、カラーリングといった一般的な理美容サービスの提供だけでなく、治療による脱毛時のご相談対応、医療用ウィッグの取扱いやアフターサービスの実施、メイク・ネイルの施術など、患者様の生活を支援するアピアランス（外見）ケアをワンストップで提供しています。ウィッグについては、メーカーを問わずカットやサイズ調整を承っておりますので、ウィッグの相談室としてもご利用いただけます。

また、車イスから理美容イスへのわずかな高さの移動が難しい患者様のご要望に応えたいと、座ったままカットやシャンプーができる移動式理美容イスを導入しております。患者様への配慮という点で、病院関係者から高い評価をいただいております。

病院内ヘアサロンの海外展開

日本で評価の高い病院内ヘアサロンを、2011 年から、ドイツ、オランダ、スウェーデンにも導入し始めています。今後、欧州だけでなく米国への展開を予定しています。



写真：ドイツの病院内ヘアサロン

制度の確立

世界初のウィッグの国家基準化 医療用ウィッグJIS規格制定

2015 年にウィッグとして世界初の国家基準（規格番号：JIS S9623）が制定されました。策定にあたり、当社は業界のリーダーとして中心的な役割を担ってきました。今後は脱毛に悩む患者様をサポートすべく、業界と共に医療用ウィッグの保険適用を目指してまいります。

AIU損害保険との提携

アデランスは、2014 年 3 月に AIU 損害保険株式会社との提携を開始しました。病気やけがなどにより脱毛された方がウィッグを購入する場合、その費用を補償する保険を通じて、患者様の QOL の維持・向上を支援することを目的としたものです。

病院内ヘアサロン 様々なお客様のご要望にも対応



国際品質管理規格の取得

アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場は、安定した製品クオリティを維持するため、1999 年に ISO9001（国際品質管理規格）を取得しております。

お客様のニーズの具現化



パリ発ファッションウィッグを日本に展開

フランス国内で女性から圧倒的な支持を受ける、アデランス・フランス社のファッションウィッグブランド「アニーダブレー」。当ブランドの日本国内の出店を 2015 年から始めました。世界のセレブに愛される、上品でエレガントなウィッグを日本全国に広めています。



フオンテーヌの専属ヘアプロデューサーに野沢 道生 様

野沢 道生様は、“似合わせの達人”と呼ばれる美容業界のカリスマで、著名人からも幅広い支持を集めている方です。今後は、よりファッション性の高いウィッグの提案や、ウィッグの楽しさを広げる提案を行ってまいります。



医療現場の声を商品に ～泡シャンプー&トリートメント～

当社では、抗がん剤治療による脱毛時のお客様でも使いやすい、初めから泡で出てくる低刺激シャンプーを提供しています。今回、現場で利用される看護師さんの声をもとに商品をリニューアルし、一本でシャンプーだけでなく、トリートメントもできるようにしました。

技量の向上

毛髪診断士の資格取得

当社は、毛髪と皮膚の専門的な知識をお客様へ正しくお伝えできるように、毛髪診断士（日本毛髪科学協会）の資格取得を推進しています。現在では社内の取得者は 300 名を超え、業界トップの人数です。

社内の資格保有者数

- ・毛髪診断士：319 名
- ・認定講師：6 名
- ・認定指導講師：5 名
(2016 年 7 月現在)

公益事業の推進に期待

日本毛髪科学協会は、公益目的事業として毛髪と皮膚に関する正しい知識の普及啓発、毛髪診断士および認定講師、認定指導講師の資格付与を遂行しております。昨年本誌にも掲載がありました「医療用ウィッグの JIS 規格の制定」は、当協会の目的と共有する事例でした。

今後も、協会役員のボランティア精神のもとで頑張りますので、毛髪診断士の資格取得推進をはじめ、当協会の発展に寄与していただくことを期待しております。



内閣府認定
公益社団法人
日本毛髪科学協会
理事長
木嶋 敬二 様

全国技術競技大会を開催

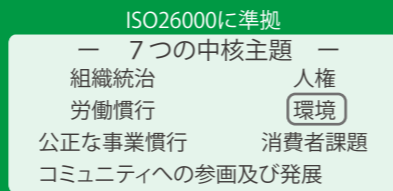
2016 年 2 月に、全国の当社店舗のスタッフが、それぞれの技量を競い合う、全国技術競技大会を開催しました。当社は、商品を販売するだけでなく、アフターサービスに注力しており、理美容技術を高めることが、お客様にウィッグを長く使っていただくために必要だと考えています。



株式会社アデランス
研究開発部 課長
認定指導講師
(日本毛髪科学協会認定)
伊藤 憲男

環境への取り組み

アデランスグループは、「環境」を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、「低炭素社会」「循環型社会」「自然との共生」に配慮した活動に取り組んでいます。



フォンテーヌ緑の森 8年目を迎え 1,200本以上を植林

アデランスグループの主力商品であるウィッグは、約80%以上が人工毛で作られています。お客様がご購入されたウィッグは、経年の利用とともに劣化し、ご不要となることがあります。その場合、家庭ごみとして廃棄されると、人工毛に含まれる成分により、CO₂の発生が危惧されます。

そのようなウィッグを回収して、適切な廃棄処理を行うことで、環境負荷への影響を低減することができるのではという思いから始まったのが「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」です。ご協力いただいたお客様には、クーポンをお渡し、そのクーポンを購入時にご利用いただくことで植林活動にもつながる、という仕組みです。

環境にやさしいキャンペーンとして、環境コミュニケーション企業である「ツバルの森」と協働で、2009年から継続的に実施しています。現在8年目を迎え、累計1,200本以上の植林実績を残しています。

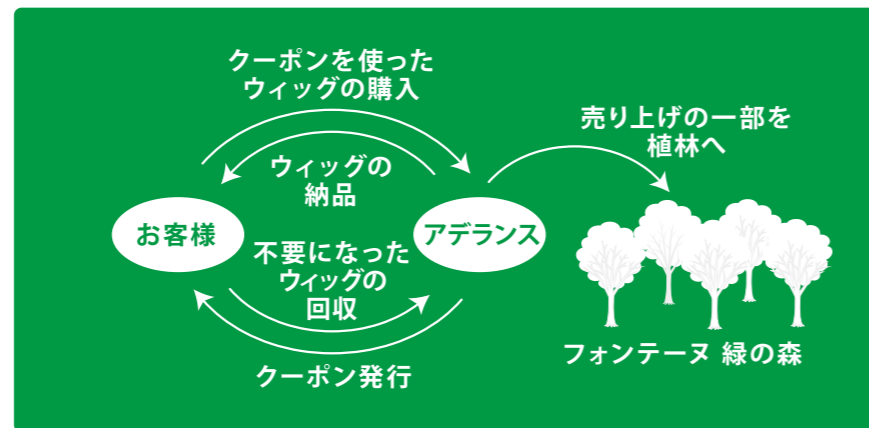
この「フォンテーヌの森」の取り組みは、英国レスター大学のワグナー教授に「環境保護という社会貢献と売上という経済活動をうまく組み込んだもので、継続性を併せ持ったとてもユニークな活動である」と高い評価をいただき、英国の経済専門誌に先進的なケーススタディとして取り上げられます。



ISO14000の取得

アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場は、1999年にISO14001(国際環境管理規格)を認証取得しています。

フォンテーヌ緑の森 キャンペーン スキーム図



環境活動

NPO法人さくら並木ネットワークとのコラボレーション

今年度より、「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」の植林活動を広げ、NPO法人さくら並木ネットワークへの支援も始めました。全国に営業拠点がある、アデランスの強みを生かし、日本各地の環境保全にまで拡大していく計画です。



アデランスタイの学校内植林

2016年7月2日、アデランスタイ TO BE NUMBER ONE クラブとバンカサン学校の先生や生徒の皆さんと共に、2016年度木植イベントで学校内に、40本の木植えを行いました。

このイベントは、環境保護活動でタイの子供たちに環境への意識を高める為でもあり、毎年の木植イベントは2009年から始まって今回で12回目になります。



東北に繋げる” 伝承の桜”

2011年3月11日に発生した大津波。津波はこれまで約100年に一度美しい東北を襲ってきました。

世代を超え代々語り継ぎ、一人でも多くの未来のいのちを守りたい。1年に1度必ず春に咲く桜に想いを託し、これまで全国各地の同じ想いの皆様と共に約4,000本を植樹しました。

植樹した桜を守り育てながら、伝承の桜を植え続けています。



NPO 法人
さくら並木ネットワーク
共同代表理事
細沼 忠良 様
小池 潔 様

環境負荷の低減



3Dスキャナーによる型取り

お客様の頭髪測定時に、3Dスキャナーを使った、型取りシステムを導入しています。デジタル化により、従来のフィッター使用を削減できるとともに、フィッター輸送が不要になるため、その分の環境負荷の軽減につながり、環境にやさしい対応ができるようになりました。



オーガニック認証商品の発売

2016年に新発売した『スカルプガード オーガリッチ』シリーズは、オーガニック認証団体の世界基準 ECOCERT (エコサート) の認証を取得した商品です。成分・パッケージ共に循環型社会づくりを目指した素材を採用し、遺伝子組み換えをした植物成分は使用していません。



LEDを活用した店舗へ

「レディスアデランス」の店舗に、美術館のように多彩なウィッグを展示する「スタイル・ミュージアム」の導入を進めています。「スタイル・ミュージアム」では、照明のLED化など消費電力の低減を図り、環境負荷が軽減した店舗造りを行っています。

環境にもやさしく、 お客様からの評価も高い

3Dスキャナーの導入より1年が経過しました。

全国の使用率は7割ほどに伸び、今までのフィッター輸送が削減され、年間輸送コストも大きく削減されています。併せて、その分の輸送やフィッターの環境負荷低減にもつながっています。

3Dスキャナーを積極的に使用されている店舗では、最初は慣れが必要であったが、今ではお客様や社員からも評価が高く、特にフィット感が良く、最先端の機器使用によるイメージアップ、キャンセル防止にもつながっています。



株式会社アデランス
執行役員
マーケティング統括部担当
川上 英夫

学術・文化活動

アデランスグループは、「笑顔」や「よるこび」あふれる社会の実現をめざし、当社の強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。

ISO26000に準拠

— 7つの中核主題 —

組織統治	人権
労働慣行	環境
公正な事業慣行	消費者課題
コミュニティへの参画及び発展	



ミュージカル『天使にラブ・ソングを〜シスター・アクト〜』（製作：東宝株式会社）



ミュージカル『1789 - バスティーユの恋人たち』（製作：東宝株式会社）

ウィッグとヘアメイクの エキスパート集団 スタジオAD

アデランスの文化芸能部門であるスタジオ AD は、ウィッグを多彩な文化活動に提供することで、ウィッグの持つ可能性を広げています。

スタジオ AD の誕生は、1983 年に初演を迎える舞台のために、舞台の関係者とアデランスのスタッフが協力してウィッグを開発したことがきっかけとなりました。その後の1985年にスタジオ AD は誕生しました。

アデランスグループ独自の芸能用ウィッグは、「エリザベート」、「放浪記」といった日本を代表する舞台芸術に採用され、その他さまざまな映画やテレビ、コンサートなどにおいても使用されております。



故・森光子様の「放浪記」

2,000 回以上上演された舞台「放浪記」（製作：東宝株式会社）。同舞台で女優・森光子様にご使用いただいたアデランスのオーダーメイドウィッグが、近鉄百貨店様上本町店において2015年11月から12月まで展示されました。有名な「でんぐり返し」のシーンでもご使用いただき「80歳を過ぎてでもでんぐり返しができて、2,000回を超えることができたのも、自分のヘアのようなアデランスのウィッグに出会ったおかげ」という大変光栄なお言葉をいただきました。



株式会社アデランス
スタジオ AD
シニアディレクター
服部 真樹

30年培ってきたノウハウ

1985年に、ウィッグだけでなくヘアメイクもできる活動を目指し平均年齢約25歳、10名に満たないスタッフで、スタジオ AD は発足しました。以来、舞台以外にも映画、ドラマ、オペラ、コンサートなどのエンターテインメント分野で活動しております。30年に渡り培ったノウハウは、当社の強みであり、さらに良い結果につなげていきたいと思っております。

輝く女性への応援

自分らしく生き、今を輝く女性の皆様を、毛髪・ウィッグを通じたサポートをしています。



書道家 永田 紗戀 様

女性ならではの素直な言葉と、そこからイメージする彩色豊かな作品、書道の枠を超えた自由な雰囲気が多く的女性から支持されている書道家・永田 紗戀 様。永田様には当社の社内報、カレンダーや本レポート等に多くの作品を書き下ろしいただいております。



チェリスト 大前 知誇 様

チェリストだけでなく料理家としても活躍されている大前 知誇 様に、コンサートや料理教室の際にご使用いただく、ウィッグや付け毛のサポートを開始しました。また、父君で、画家である大前博士様の作品展に協賛させていただきました。



タンゴ歌手 冴木 杏奈 様

タンゴ界を代表する、冴木 杏奈 様のコンサートツアーやイベント等に、当社のウィッグを提供し、利用いただいております。パリや NY での公演などでは、当社の現地子会社と一体となって、ウィッグとヘアメイクのサポートをしました。

アカデミック機関との共同研究 産学連携の研究成果を商品へ

大学などのアカデミック機関と連携しており、東京大学、大阪大学、東京工業大学、大分大学など、寄付講座や共同研究を推進しています。なかでも大分大学とは「抗がん剤治療による脱毛の抑制」の研究を行い、その成果が得られる手前まで来ています。また、東京工業大学からは新しい人工毛髪の研究に学術指導をいただき、さらなる高品質商品開発に向けた研究が進んでおります。



第6回CIA研究会において抗がん剤治療による脱毛の抑制研究を発表



第13回アジア繊維会議において人工毛髪研究の成果を発表



第20回日本臨床毛髪学会学術集会のセミナーを共催



ボズレー社ワシニック博士「第9回世界毛髪研究会」セミナー議長として登壇

新人工毛髪研究開発メンバー



写真：左から2人目が関課長代理

2015年の「アジア繊維会議」で、当社の独自技術によって、人毛の光反射特性に近似する、自然な風合を持つ人工毛髪の最適の製造条件を見出したことを発表しました。

今後は、フリージングの軽減やハリ・コシの付与、サイバーヘアおよびバイタルヘアの特性を強化するなど、お客様の、さらなるニーズに合った人工毛髪開発を進めてまいります。

株式会社アデランス
研究開発部 課長代理
関 正敏

リスナーの笑顔を咲かせよう

お客様をはじめ、すべての方の笑顔のために、物事の本質を追及される株式会社アデランス様には「本来のビジネスとはこうあるべき」と、いつも素晴らしい刺激をいただいております。我々も震災以降、全国の「防災ラジオ」として益々頼られ、地域の「安全・安心」と「こころ」を支える全国のコミュニティFM局様とともに、日本全国でリスナーの皆様笑顔の花が咲くよう、今後も様々な企画に挑戦して参ります。

株式会社ミュージックバード
代表取締役社長
雄谷 英一 様



国際文化交流公演に協力

アデランスは、2015年5月に、早稲田大学が主催する国際文化交流公演に協力しました。その際、カザフスタン国立アルマティ・バレエ学校の関係者に、当社が舞台芸術で築き上げてきたエンターテインメントウィッグについて、紹介しました。

海外での取り組み

現在、アデランスグループは、世界 17 カ国で事業を展開しています。各国の海外子会社においても、国内の CSR の取り組みと連動して、「笑顔を広げる」活動を実施しております。



Benelux(Belgium, Netherlands)



がん患者と家族を支援する財団 NU JIJ 設立

アデランス・ベネルクス社フランシー・ヘアブティック店の店长であるレニー・ヴァン・ズンダートが、自身ががんになった経験から、がん患者様を支援する NU JIJ (NOW YOU) 基金を 2012 年設立し、活動しています。

病気で苦しむ人に笑顔を

私は 2004 年に乳がんを患い、その治療経験から同じような境遇の人を助けたいと思いました。治療中に現在私が働いているフランシー店に行き、ウィッグの紹介を受けたことがきっかけで、同じようがん患者様にウィッグを紹介したいと思うようになりました。その後、美容師免許を取得し、フランシー店で勤務し始め、日々の営みの中でがん患者様をサポートする活動に取り組んできました。4 年前にがん患者様と家族を支援する財団 NU JIJ (NOW YOU) を設立しました。アデランス・ベネルクス社や他の企業様からの協賛金を得て、闘病で苦しい状況にある方々に対して、家族と共に楽しいひと時を過ごし、笑顔を取り戻せるようなイベントを提供しています。



アデランス・ベネルクス社
フランシー・ヘアブティック店 店长
レニー・ヴァン・ズンダート

財団 NU JIJ (NOW YOU) の活動概要

がん患者様とご家族に「笑顔」が戻り、特別な日となるよう、さまざまな精神的ケアプログラムを提供しています。

提供プログラムの一例

- ・ マッサージ
- ・ 美容トリートメント
- ・ ペディキュア・マニキュア
- ・ 髪メイクアップ・お手入れ
- ・ フラワーアレンジメント、キャンドルや絵描のワークショップ
- ・ 郊外の観光地などへのドライブツアー など



Laos



ラオス「サワンナケート工場」

アデランスは、2015 年にラオス「サワンナケート工場」を新設し、稼働を始めています。

このラオス「サワンナケート工場」本工場が、日本の経済番組の特集で紹介されました。特集では、ラオス人の手先の器用さを活かした意外な日本式モノづくりとしてオーダーメイドウィッグが紹介されました。また、取材に来られた、テレビ局のスタッフの皆さんが大変驚かれたのは、工場の従業員のモチベーションの高さと緻密な作業。「オーダーメイドウィッグはまさに日本の伝統技術が詰まった作品」と評していただきました。

ラオスはタイ語が通じるため、タイで 20 年以上培ったウィッグの技

術をラオスの人に教育することができます。また、本工場の稼働により、今後新たな雇用が創出され、2017 年末のラオス全体での雇用は 3,000

人に達する見込みです。ラオスでの新たな雇用創出とともに、理想的な環境の工場を目指してまいります。



USA



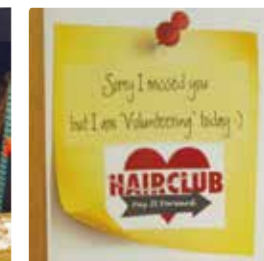
米国乳がん研究協会への寄付

ボズレー社では毎年 1 回、売上の一部を米国乳がん研究協会への寄付を行っています。2015 年より、一定金額の寄付から、ピンクリボン月間の売上に応じた寄付に変更することで、社員の意識が高まり、活動がさらに活性化しています。



Pay It Forward

映画「ペイフォワード」に感銘を受け、受けた厚意を相手に返すのではなく、周りの人に感謝の気持ちを広げていくことで厚意の輪が広がるというヘアクラブ独自のボランティア活動を行っています。



写真(上)
ボランティア休暇の際に各自のオフィスのドアなどに貼る不在を示すマーク



Hair Club For Kids

6 歳から 17 歳の髪で悩む子どもたちにウィッグをプレゼントしています。ウィッグを提供することができるという自社の強みを社会で生かすアデランス社の「愛のチャリティ」と同じ志を持ったサポート活動を、1992 年から 20 年以上継続して行っています。

ステークホルダー・ダイアログ

昨年に引き続き、経営倫理実践研究センター（BERC）首席研究員である田中宏司先生を、外部の有識者としてお招きして「ステークホルダー・ダイアログ」を実施しました。今回は、各事業部長を加えた 10 名で対談を実施しました。（実施日：2016 年 8 月 18 日）

田中先生：コンプライアンスとガバナンスは CSR の基礎であり、「守り」の部分とされています。実際に不祥事を起こす会社は「守り」の部分で発生しています。せっかく CSR をやって営業成績を上げて、これでは社会からは批判されることになります。守りの部分を固めた上で、攻めの CSR をやらないといけません。CSR は JIS 規格、国際規格となっていますが、まだ浸透していません。どのような戦略的 CSR をするかは、企業や経営者が決めるものです。

津村：「攻め」と「守り」の基礎をしっかりと作らないといけない中で、当社は国内外に約 6,100 名もの社員がいて、グローバル・ガバナンスということで、本社との連動化、見える化を推進し、リスクや不祥事を事前に防ぐよう務めています。「攻め」の CSR としては当社がやっていることを多くの方にご理解いただきつつ、現場でも「攻め」の CSR をやっていただきたいです。それがビジネスに繋がり、そして持続的経営に繋がり、更にグッドカンパニーとなって、当社がビジョンに掲げている ESCR の状態に繋がると思います。

片出：以前は顧客第一主義というのをどこの会社でも掲げていましたが、昨今 CSR と謳う企業が増えてるように感じています。一方的な自社の CSR の押し売りにならないよう、取引先様がどのような CSR 活動を行っているか、聞き出しながら共有していくような配慮をしながら、自社の取り組みを知っていただけるようなスタンスでやっていきたいと思っています。

徳永：社会貢献という点で、今まで寄附や社会から得たものを社会に還元していく活動が主でしたが、今は海外を含め CSR や CSV など事業を通じて継続的に社会に貢献していくこと、そして、これが戦略にどれだけ折り込まれているかという点が、企業に対して注目されているところだと思います。

新：「攻め」の CSR ということでフォンテヌ緑の森キャンペーンをフォンテヌ事業が中心となって実施しており、ある程度定着しつつあると思います。しかし、これからは言われるがままではなく、自ら気付き社会貢献やボランティア活動に取り組み、一人ひとりの活動の

積み重ねが企業として社会貢献を実施していく方がより社会に認識していただけると思うので、個々の積み上げをしっかりとっていくことが「攻め」の CSR をより強固なるものに成長させていくと思います。

大里：病院内へアサロンの拡大ということを進めていますが、病院の方にどのように当社を理解していただくかを常に考えています。小さなことでも交渉しながらそれが最終的には病院の患者様のためになるので、そういったことを意識しながら進めてきました。まだまだ CSR に関して理解が薄い部分があるので、今日を機会により理解を深めて、それを幅広い病院関係者に説明できればと思います。

高木：取引先様からは上場しているだけあって CSR 活動はしっかりしているという前提で交渉が進められる現状があり、会社としての認識はとても高めに見られており、それに対して活動・行動、発言などちょっとミスをする「アデランスさんなのに・・・」ということを言われます。そういう目で見られているということであり、社会貢献についても慎重に行なっていかなければいけないと感じています。

陰山：改めて、「攻め」と「守り」の CSR を考えた時、我が社は攻めの部分は多く、守りが非常に少ないと感じます。そのため問題が起こっているのではないかと認識をしているので、もう一度基礎となる部分をしっかりと積み上げていかないと永続的な社会貢献ができ且つ、利益も上げられるという本当に強い企業にはなれないと感じています。

八木：周りから見た当社は？と考えたとき、攻めを上手く取り入れながら、営業を中心に、ここ 5 年間で積み上げたものとそれが健全で永続的な企業だと言われています。さらに今回新たに高野取締役が社外取締役として就任されたことでコンプライアンス・ガバナンスの再形成を目指すこととなり両輪で回ることが可能となりました。2011 年に CSR プロジェクトが誕生後、今年には変革の時期ではないかと感じています。今後はコンプライアンス・ガバナンスの点から、組織を高めるという形に変えていかねばならないと考えています。



- | | | | | | | |
|-------------------------|-----------------------|---------------------|------------------------|-----------------------|---|------------------------|
| 1 八木 専吉
CSR 推進部 課長代理 | 2 高木 豊
美材ルート営業部 部長 | 3 徳永 輝行
通信販売部 部長 | 4 片出 昌史
展示会営業企画部 部長 | 5 大里 修治
医療事業推進部 部長 | 6 箕輪 睦夫
執行役員 海外事業本部副本部長
米国エリア部 CSR 推進部 担当 | 7 新 秀夫
GMS 営業企画部 部長 |
|-------------------------|-----------------------|---------------------|------------------------|-----------------------|---|------------------------|

箕輪：2011 年に CSR プロジェクトを立ち上げました。その際、まず最初に、CSR の社内浸透を効果的に推進するために、社内の社会的価値を持った活動を社員向けに「笑顔のために」という小冊子にまとめ、全国の店長会議などで営業現場の人たちへ説明をしました。お陰様で、営業と一体になった「攻めの CSR」に特化することで、社員の CSR 活動への理解も深まることができました。今回、高野取締役が加わったことで、守りの部分が強化され、これからが当社の CSR が本当に大きくなっていく年であると感じています。そこで今回の CSR レポートの表紙「初志」は 2011 年に CSR プロジェクトを立ち上げた当時、コンプライアンス・ガバナンスも含めて本当に強い会社を作りたかった思いを込めて、最初の志ということでタイトルとしました。

田中先生：各部署長より話がありましたが、皆さんは経営層に近いところにいるので、全社的な視点で当社がどういう理念でどのような方向に進んでいるのか、必ず見ておく必要があります。またグローバル展開しているため、グローバルな視点が必要となってきます。アデランスは国内でいう「三方よし」の精神を受けながら、実際には ISO26000 の大きな流れをふまえているため、流れとしては非常に良い方向に行っています。後は戦略的 CSR をやると「守り」が粗雑になってしまいます。基礎となる部分を押さえておかないと思わぬ失敗に繋がってしまいます。不祥事は原点の行動基準違反により発生しているケースが多いです。企業の行動基準というのは新入社員から社長・会長までが全員で守るものであり、行動基準というのは企業の経営理念に基づいて、法律的なものや社会の様子を入れて作っており、全ての基準が網羅されています。それぞれの立場で部署のチェックリストを作っておくこと

ステークホルダー・ダイアログの対談メンバー



田中 宏司 様

東京交通短期大学 名誉教授
（社）経営倫理実践研究センター 理事・首席研究員
日本経営倫理学会前副会長
経済産業省「ISO26000 JIS 化本委員会」委員

も、自分を守り、自分の部署を守り、会社を守ることにつながります。こうすることで「守り」がしっかりと安定し、「攻め」の戦略的 CSR に専念することができ、一体化した行動となります。

箕輪：当社は、国連グローバル・コンパクトに加盟しています。加盟する際に、事務局長より当社の人毛比率について質問がありました。中国の山奥で子供たちの髪の毛を切っているという声に既に国連で問題になっていたからです。しかし、当社は 9 割近くを当社の人工毛髪で補える環境を作っているため、世界の目が本当に厳しい中でも加盟することが認められました。

田中先生：CSR レポートに載っている 7 つの中核主題は、7 つだけやれば良いということではなく、7 つは必ずやらなければいけないという意味です。アデランスに合ったチェックリストを作ってみてください。

津村：今年 5 月に關監査役が就任されました。關監査役は様々な部署を回って、部署長ではなく、部下に自由にヒアリングを行なっています。それをふまえて今後は縦軸ではなく、横軸での情報共有の強化を推進していこうと試みています。「社会の公器である」と松下幸之助氏も言ったように、企業は社会のためにあります。社員がいきいき働くことで、家族も支援してくれ、取引先様も当社のために一生懸命働いてくれます。社員や取引先様が一生懸命やってくれる環境を作れば、お客様に喜んでいただける商品・サービスを提供でき、売上が上がり、持続的にお客様と付き合っていくことが可能となり、地域社会へ雇用の創出・税金の還元へと繋がります。

CSR 広報活動

アデランスグループの CSR 活動や取り組みを多くの方に知っていただくため、イベント等での講演、新聞等からの取材、書籍へのケーススタディの執筆、学術論文での研究対象としての協力などが進んでいます。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
アナリスト・投資家向けセミナー	1回	1回	8回	3回	2回	3回
企業・一般向けセミナー	1回	2回	3回	10回	7回	1回
大学での CSR 特別講義	0回	2回	11回	8回	9回	7回

※2016年9月現在

講演など

自分にもできることがある!

アデランスの CSR 活動「クリスマス・サンタ企画」で仙台の病院を訪れ、お子様にプレゼントをお渡ししました。

病気で自宅に帰れないお子様、そして自分の身よりも大切なお子様を支えているご家族の方が、たったの一瞬だけでも笑顔になったり、華やいだ気持ちになったりして下されば、この上なく素晴らしいことであると実感致しました。それと同時に、「自分にもできることがある!」と逆に勇気やエネルギーをいただくことができました。

アデランスは CSR 活動を全社員が認識して、そして誇りに思っています。

今後は、その活動に 1 箇所でも多く、携わっていきたく思っています。

俳優
船越 英一郎 様



東日本大震災の特別番組「KIZUNA Station」での対談
震災特別番組「KIZUNA Station」が 2016 年 3 月 11 日に、全国 108 局のコミュニティ FM 網を通じて放送されました。番組の中で、東北地域における当社 CSR 活動の紹介及び活動のあり方や進捗状況について紹介されました。番組には俳優・船越英一郎様、東京交通短期大学名誉教授・田中宏司様出演いただき、当社 CSR 推進部担当執行役員・箕輪睦夫と CSR 活動に関する対談を行いました。



美容専門学校でのリクルート授業
2016 年 7 月に、茨城県古河市にある盈科(えいか)美容専門学校にて、リクルート活動を兼ねた出張授業を開催しました。当社の教育指導部よりウィッグ試着体験及び型取り実演を行い、ウィッグに触れることで会場が和んだ後、CSR 推進部より、当社の CSR 活動を紹介いたしました。終了後、学校側より「このような講義を定期的に行ってほしい。」との依頼がありました。

書籍・雑誌



「マーケティング倫理が企業を救う」への取材記事



「放送大学教科書:技術者倫理」への執筆



「人事実務」への取材記事



「経営倫理」No.76 への執筆



「実践!『やじうま広報塾』」への取材記事



「三方よしに学ぶ人に好かれる会社」への執筆



2016年春に当社事例掲載書籍が発刊

「沢沢栄一に学ぶ『論語と算盤』の経営」への執筆



株式会社同友館
取締役 出版部長
鈴木 良二 様

「論語と算盤」を見事に実践!

今回の書籍『沢沢栄一に学ぶ『論語と算盤』の経営』に『航西日記』から学ぶアデランス」という内容で、箕輪睦夫副本部長にお書きいただきました。沢沢栄一は道徳(論語)と商業(算盤)の両立を説きました。アデランス様は、まさにそれを実践されていますね。これからも、グローバルな企業活動、そして道徳=CSR 活動に取り組んでいただきたいと思います。

目次

トップメッセージ	1	社会・地域貢献	9
特集		お客様の安心・安全	11
英国の名門レスター大学での	3	環境への取り組み	13
戦略的 CSR 講義		学術・文化活動	15
新たな戦略的 CSR	4	海外での取り組み	17
「攻め」と「守り」の CSR	5	ステークホルダー・ダイアログ	19
全国技術競技大会	6	CSR 広報活動	21
生産現場での CSR の取り組み	7	目次・編集方針 等	22

編集方針

「CSR コミュニケーションレポート 2016」発行にあたり

2012 年、当社として初めての「CSR コミュニケーションレポート」を発行しました。

それから 5 年が経過し、当社の CSR 活動や取り組みを、社内外に伝えただけでなく、書籍やメディアなどにも取り上げていただくようになり、さらに様々な団体とのコラボレーションのきっかけにまで発展してきています。

当社は、「CSR コミュニケーションレポート」を CSR への取り組みを開示し、社内外の皆様の声を取り入れながら、活動をさらに進めていくための重要なツールと位置づけています。

お客様、取引先様、社員、株主・投資家様、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

CSR 重要課題

あらゆる種類の組織のための社会的責任に関する手引である国際規格 ISO26000 が 2010 年に発行されました。持続可能な社会を目指す当社の活動(本紙 9 ページから 16 ページに記載)は、ISO26000 の 7 つの中核主題に基づき分類しています。

- 7 つの中核主題 —
- 組織統治
- 労働慣行
- 公正な事業慣行
- コミュニティへの参画及び発展
- 人権
- 環境
- 消費者課題

報告書の対象期間と範囲

対象期間:2015 年 3 月 -2016 年 2 月まで。
ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

経営方針や財務情報に関して

業績やコーポレートガバナンスなどについては当社 IR サイトをご覧ください。

<http://www.aderans.co.jp/corporate/ir/>

企画・制作

株式会社アデランス グローバル CSR 広報部
アドバイス・サポート:ツバルの森

発行年月と次回発行予定

発行日:2016 年 9 月

次回:2017 年 8 月予定

CSR 情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ情報を適切にお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSR コミュニケーションレポート」「笑顔のために」の 2 誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<http://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>